

農業産廃からごみ袋

ハウス用農ポリを再利用

坂東の岩井化成が商品化

廃プラスチック再生の岩井化成(本社坂東市、清水弘社長)は、農家から産業廃棄物として排出される使用済み農業用ポリエチレンフィルム(農ポリ)からごみ袋を作ることに成功し、業務用ごみ袋として販売を始めた。同社製の従来のごみ袋よりも価格が一割程度安いことから、清水社長は「今後、自治体の指定ごみ袋などにも使ってもらいたい」と販路拡大を目指す。



使用済み農業用ポリエチレンフィルムからリサイクルしたごみ袋

県園芸流通課などによると、県内では、回収された農ポリはほとんど再生されておらず、セメント会社の熱源などに使われているのが大半という。同社によると、農ポリには泥などが付着して

いるため、リサイクルするには高コストとなり、「同業他社も手を出しにくいのが実情だった」(清水社長)。

「同業他社も手を出しにくいのが実情だった」(清水社長)。

同社は昨年、ハウス用の農ポリからごみ袋を再生する研究に着手。回収した農ポリを細かく刻み、洗浄と水分除去を徹底させることで異物混入の軽減に成功。この再生原料を50%使って昨年十一月には「農強ダストパック」のネーミングで商品化にごきつめた。これに伴い、約一億三千万円掛けて専用ラインも設置した。

同社は一九八七年の設立。廃ポリエチレンを再生原料としてごみ袋を製造するほか、中間原料の販売も手がける資源環境会社。牛乳びんのキャップからごみ袋を再生する技術力を持つことでも知られている。同社☎0297(35)1879。(今橋憲正)

ごみ袋の大きさは四十五、七十、九十センチサイズの三種類でいずれも十枚入り。清水社長は「色は少しくすんでいるが、ごみ袋としての機能は十分

果たしており、お客さんからの評判も良い」と自信を示す。
今後はこの技術を全国各地で普及させることも念頭に、「環境に優しいごみ袋を広めたい」話している。